

福德岡ノ場の火山活動解説資料（令和3年10月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

8月下旬以降、噴火は認められないものの、引き続き、変色水域が確認されるなど、活発な火山活動が継続しています。福德岡ノ場の周辺海域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石やペーサーージ（横なぐりの噴煙）に警戒してください。また、噴火による浮遊物（軽石）に注意が必要です。

また、10月末現在、福德岡ノ場の海底噴火に由来するとみられる軽石が、沖縄県や鹿児島県奄美地方の海岸に漂着しているのが関係機関等により確認されていますので注意してください。

令和3年8月16日に噴火警報（周辺海域）を切り替えました。その後警報事項に変更はありません。

○ 活動概況（図1～図4）

12日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、噴火は認められなかったものの、周辺には、引き続き、黄緑～黄褐色の変色水域が広く分布していました。福德岡ノ場周辺及び福德岡ノ場から北西方向に約3海里（約6km）のびる黄緑色の変色水の分布を認めました。これらのことから、活発な火山活動が継続していると考えられます。

西側の新島は前回調査時（9月12日）の3分の1程度に縮小していました。

気象衛星ひまわりの観測では、今期間、噴火活動の活発化や溶岩流出を示唆するような輝度温度¹⁾の変化は認められていません。

なお、4日頃に南大東島に漂着した軽石（南大東島地方気象台が採取）を調査した結果、8月に海洋気象観測船「啓風丸」で採集した軽石に特徴が似ていることから、福德岡ノ場の海底噴火に由来する噴出物であると考えられます。また、10月末現在、軽石が沖縄県、鹿児島県奄美地方の海岸に漂着しているのが関係機関等により確認されています。

1) 輝度温度とは、気象衛星で観測された放射エネルギーを観測対象が黒体と仮定して変換した温度のことで、他の温度と区別するためこのように呼ばれています。

※各種気象情報や衛星画像は福德岡ノ場ポータルサイトを御覧ください。

https://www.jma.go.jp/jma/menu/R03_karuishi-menu.html

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和3年11月分）は令和3年12月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上自衛隊、海上保安庁及び第三管区海上保安本部のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。



図1 福徳岡ノ場 新島及び周辺海域の状況（2021年10月12日及び9月12日）

- ・12日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、噴火は認められなかったものの、新島周辺に黄緑～黄褐色の変色水域が広く分布していました。
- ・8月13日の噴火で形成された新島のうち東側は海没し、顕著な陸地は確認できませんでしたが、浅瀬が存在し、波浪礁による白波が確認されました。
- ・西側の新島は前回調査時（9月12日：左下）の3分の1程度に縮小していました。
- ・西側の新島北岸付近及び東側の波浪礁北部に茶褐色の変色水が分布していました。
- ・福徳岡ノ場周辺及び福徳岡ノ場から北西方向に約3海里（約6km）のびる黄緑色の変色水の分布を認めました。



図2 福徳岡ノ場 2021年10月4日頃に南大東島に漂着した福徳岡ノ場由来と考えられる軽石
上段： 南大東島での漂着の様子 (2021年10月4日、南大東島地方気象台撮影)
下段： 福徳岡ノ場との位置関係

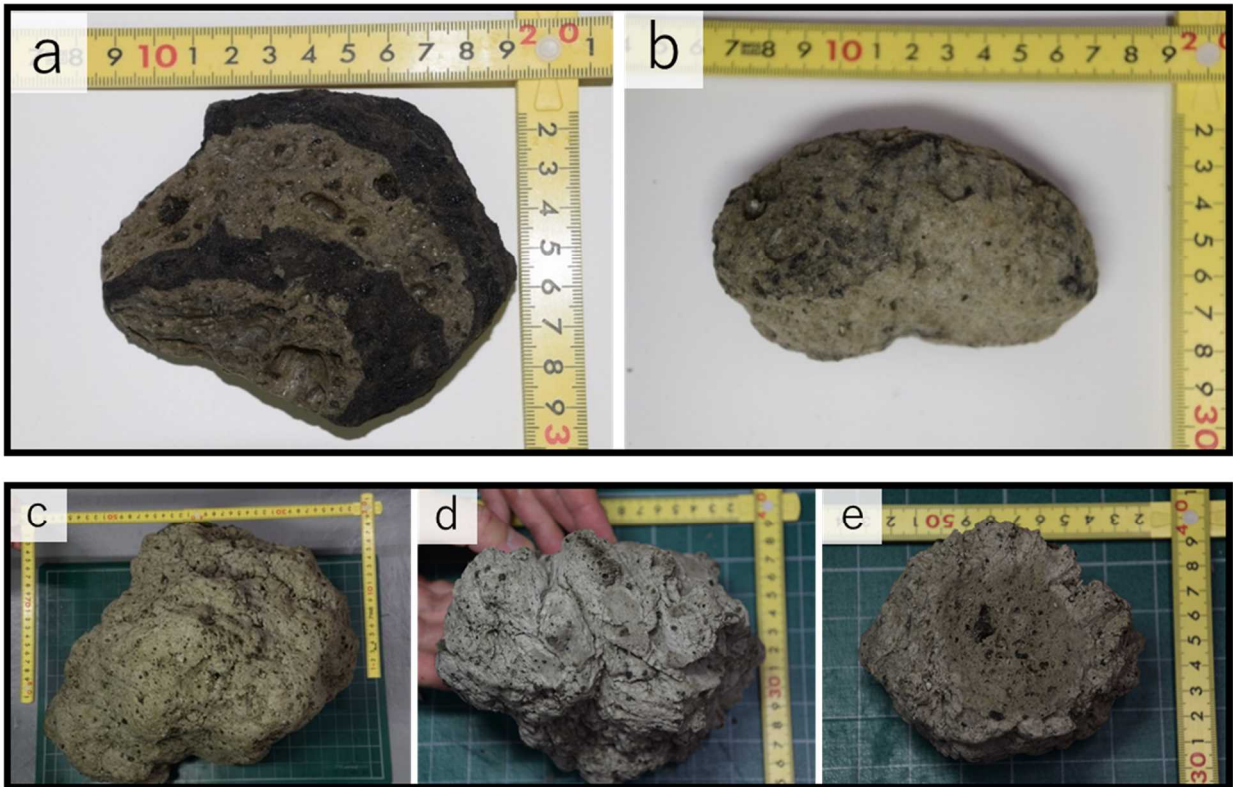


図3 福徳岡ノ場 南大東島で採取した軽石の肉眼観察結果

- ・10月4日に南大東島で採取した軽石（写真 a、b）は、主に黒色、灰白色、暗褐色で、表面には気泡がみられました。
- ・南大東島に漂着した軽石は、8月22日に海洋気象観測船「啓風丸」で採集した軽石（写真 c～e）に特徴が似ていることから、福徳岡ノ場の海底噴火に由来する噴出物であると考えられます。

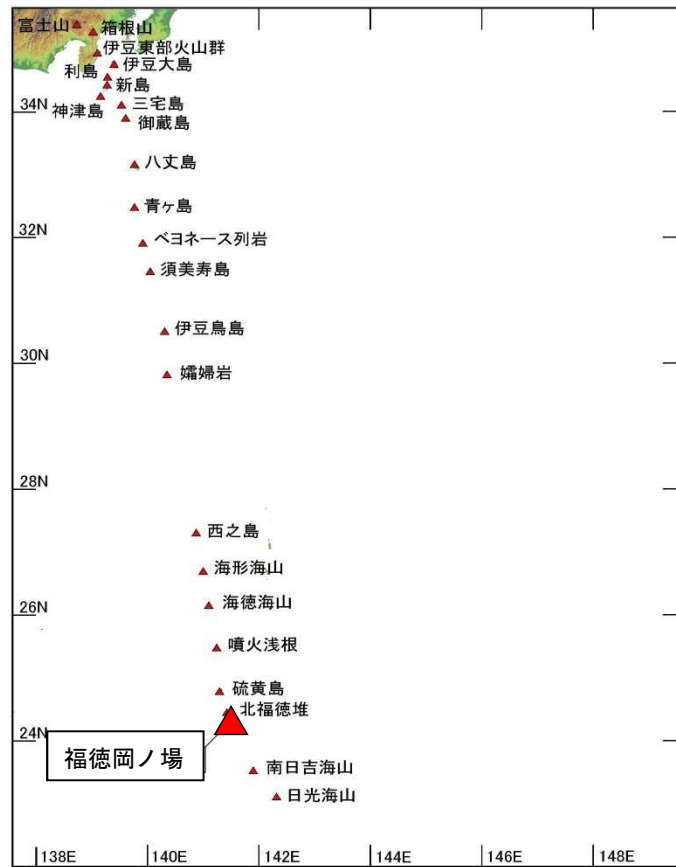


図4 福徳岡ノ場 伊豆・小笠原諸島の活火山分布と福徳岡ノ場
地図は、日本活火山総覧（第4版）から引用。